

第2回 学校運営協議会 議事録

- 1 日 時 令和8年7月8日(水)
- 2 場 所 御殿場特別支援学校 会議室
- 3 出席者 学校運営協議会委員

・前小山教育長(CO)	高橋 正彦 様
・トヨタ自動車(株)東富士研究所管理部	野口 欣樹 様
・時之栖 社長室	加藤 弘一朗 様(欠)
・(福)御殿場市社会福祉協議会 常務理事事務局長	鎌野 晃 様
・御殿場市未来プロジェクト課長	渡邊 和美 様
・町屋区長	久澤 正順 様
・PTA代表	瀬川 ひろみ 様

本校校長、副校長、教頭、事務長、各学部主事(高主事欠)、教務課長、
連携課長、進路指導課長 計17名(内2名欠席)

4 議事録

(1) 校長あいさつ

1学期の教育活動が大きな事故なく順調に行われていることに対し、地域・関係者の協力へ謝意が述べられた。今年度の経営計画に「働き方改革」を追記したことについて、教員が心身ともに健全な状態で生徒と向き合う環境を構築することの大切さが共有された。前委員の退任に伴い、トヨタ自動車株式会社 東富士研究所の野口様を新たに委員として迎え、任命式を執り行った。



(2) 校内参観

小学部から高等部まで、各学部を参観した。

(3) 協議「本校の進路指導について」(進路指導主事)

高等部では、3学年での学びや経験を経て、生徒が主体的に進路を選択できるよう支援を行っている。1年生では、働く生活の基礎を習得するためにまずは「知る」ことを目標にしている。5月より校内作業学習を開始し、職場見学、1日職場体験を通じ、仕事の種類と福祉サービスを認識する。2年生では、「考える」ことを重点におき、前期6日間・後期8日間の職場実習を実施している。異なる複数の現場を経験することで、自己の適性を客観的に把握し、選択肢を広げる。3年生では、「決定する」ことに重点を置いている。卒業後の進路先を想定した実習、移行支援会議にて、各市町の関係機関、本人、家族と合意形成を図り、進路を確定する。



進路先としては、一般企業、就労移行支援、就労継続支援(A型・B型)、生活介護、自立訓練等、選択肢は多岐にわたる。近年、自立訓練と就労移行を組み合わせ、4年間かけて社会移行を準備する「カレッジ型施設」への進路もある。

課題としては、地域の中で受け入れ可能な進路先が減少していることが挙げられる。生活介護の利用については、一つの施設だけでは月～金の枠を確保できず、複数の施設を併用せざるを得ない等の現状がある。

(4) 高等部代表生徒による職場実習報告

生徒が司会を行い、5名の生徒がICT機器を使用し、職場実習の報告を発表した。

(5) 代表生徒と委員の皆様とのセッション

二つのグループに分かれセッションが行われた。生徒からは「家族と喧嘩した際の対処法」や「余暇の過ごし方」についての質問が出た。委員の方たちからは、「一度距離を置き、落ち着いてから話す」ことや「ドライブや読書、サッカー観戦等でリフレッシュする」などの具体的な内容が挙げられ、社会人としての気持ちの切り替え方や、余暇の活用の仕方等をアドバイス頂いた。また、委員の方たちから「今の頑張りを継続してほしい。」との応援の言葉が贈られた。



(6) 委員の皆様からの御意見・御感想

卒業後のサポートについては、就業・生活支援センター「ひまわり」を中心に、学校や相談機関、ジョブコーチ等と連携をしながら行っていくことを確認した。卒業後に生徒が支援を必要とした際に、支援やサービスを適切に受けることができるよう、関係機関に繋いでいくことが大切であるということを再確認した。

学校・保護者と、企業等の受け入れ側では、生徒の障害理解における深度が異なるため、情報（何ができて何ができないか）が形として伝えられたとしても、障害理解を十分に伴った内容までは伝わりにくい現状があるという課題が挙がった。保護者からは、雇用現場への不安について、卒業生が働く現場で叱責されている様子等が挙げられた。子どもたちが学校を卒業した後に、安心して生活すること、働くことができるよう、共に歩む「伴走者」として社会や職場の在り方を考えていくことの重要性が共有された。そのためには、子どもたちが在学中に地域社会と繋がることのできる機会を積極的に設けることや、学校から進路先への情報共有の充実を図ること等が大切であることを見直すことができた。また、学校現場における特別支援教育の核心である「専門性（研修時間）」を確保することの難しさについての意見が挙がった。持続可能な学校運営に向けて、教員の専門性向上と、働き方改革の両立を図ることの大切さについての意見が挙がった。

(7) 校長挨拶

1学期の終盤の時期に、校内参観、高等部3年生の実習報告、その後のディスカッションを通し、委員の皆様から、応援の言葉や、生きた知恵の提示をして頂いたことに、深く感謝している。

本日の議論を通じ、情報の共有、相互理解、そして何より「地域参加」の重要性を再認識した。頂いたご助言を一つひとつ学校運営に反映させ、生徒の自立と地域共生の実現を目指し、より良い学校づくりに繋げていく。

他校で発生した極めて痛ましい事件を受け、夏季休業に向けた危機管理を徹底し、安心・安全な学校運営に努める。

※次回の予定

12月5日（土）の御特祭の参観をもって、第3回学校運営協議会とすることを周知した。

（終了）